

テーマ「大人の性教育」

- 開催日時 2023年3月3日 講義 11時30分～12時30分
ランチ会 13時00分～14時00分
- 講師 森川身江子（にんしん SOS 広島 支援コーディネーター）
- 参加者 お母さん6名（内1人は3月出産予定）、未婚女性3名（20代1名、30代2名）、NHKの記者 1名 計10名

【参考】参加された方の子どもの年齢 ※3歳1人、19歳、21歳以外は男の子

年齢	1	3	4	6	8	9	11	19	21
人数	1	3	1	2	2	1	2	1	1

4 概要

講義「性教育について」

(1)性教育について抱えているイメージについて参加者に話してもらった内容

- ・男女で分かれて、生理について話を聴く機会。
- ・保健体育の時間
- ・性教育は学校では教えてくれない。
- ・子どもに何を伝えていいかわからない。
- ・避妊についてというか、コンドームについて習ったような??
- ・学校では、子どもができるまでの細胞の動きを学んだ。
- ・性教育は講師の先生の講演だったような…
- ・はっきりと習った記憶がない。
- ・男女一緒に習った。(20歳代参加者)
- ・性教育を習ったことがない。あまり詳しく習った記憶がないのに伝えないといけない。
- ・すぐにネットにアクセスできる環境で、たくさんの情報が溢れている。
- ・正しい知識を伝えていく必要がある。
- ・何を伝えていいかわからない。
- ・知識を伝えても活用できるのか疑問がある。



(2)今日伝える性教育について説明

- ・自分が望んだときに妊娠出来るよう。
- ・避妊の知識があっても、自尊心（自分を大切に思う気持ち）が足りていないと、相手に「避妊して」と言えない。
- ・子どもたちの自尊心を育てるのは大人の役割がとても大切になってくる。

(3)自尊心について説明

- ・「自尊心」とは自分を大切にする気持ち。 『わたしOK あなたOK』
- ・声掛け一つで自尊心は育てることができる。
- ・子どもをジャッジしない。
- ・言葉で表現する。(思っているだけでは伝わらない)
- ・自分を大切に思う気持ちを育てていくことがとても重要になってくる。
- ・あるがままを受け入れる。

- ・自尊感情には動きがある。その動きを知り、対処方法を知る。
- ・自尊感情が低い時は攻撃的になったりするために、人と距離を置くことも大切になる。
- ・プライベートゾーンと言われているが、本人が気持ち悪いと感じるタッチはすべて嫌なタッチ。
- ・性虐待を受けた子どもの多くは「二人だけの秘密ね、ママに話すとママがいなくなるよ」などと、誰にも言わないようにコントロールされている。
- ・加害者のコントロールから子どもを守るために、どんな秘密を話してくれても、「あなたのことが大好き」などと伝える。(ありのままの受容)
- ・大人も自尊感情を育てるために、自尊感情に関わる本を読んでみることを薦める。



(4)性教育の絵本について

- ・自分が読みやすいと思うものが一番伝えやすい。
- ・自分が絵本を読んだ時に、うなずけないものはどんなにいい本でも子どもたちに伝わりにくい。

(5)医療について

- ・子どもが小さいころから、ホームドクターに婦人科の先生を持つことが大切。
- ・身体が成長していく中で、専門家の相談相手はいた方がいい。
- ・親に言えないことも先生には相談できるかもしれない。
- ・相談できる大人がたくさんいる環境を作っておくこと。
- ・子宮頸がんワクチンは打った方がいい。セックス経験のない時点で打つことが必要。男の子も出来れば打った方がいい。

ランチ座談会

- ・男の子への性の説明時期や方法。
- ・子どもたちと性について話をする前に、パートナーと話をしてみることも大切。
- ・パートナーと性の話をするのも難しいし、恥ずかしいと思う。
- ・パートナーと話をすることで子どもたちに伝える練習も兼ねることも出来る。
- ・コロナ禍になり、ママ友に会うことも出来なくなり、誰に相談していいかわからなかったのが、とてもいい機会になった。
- ・ママ友でも、性の話はしにくかったりするので、オープンに話せたのはとてもよかった。
- ・性教育と座談会が一緒になっているので、話を聞いた後に気軽に疑問に思ったことが聴けたりするのもいい。

